

■発行／南方熊楠顕彰会

〒646-0035 和歌山県田辺市中屋敷町36番地  
http://www.minakata.org/TEL0739-26-9909 FAX0739-26-9913  
(Email) minakata@mb.aikis.or.jp

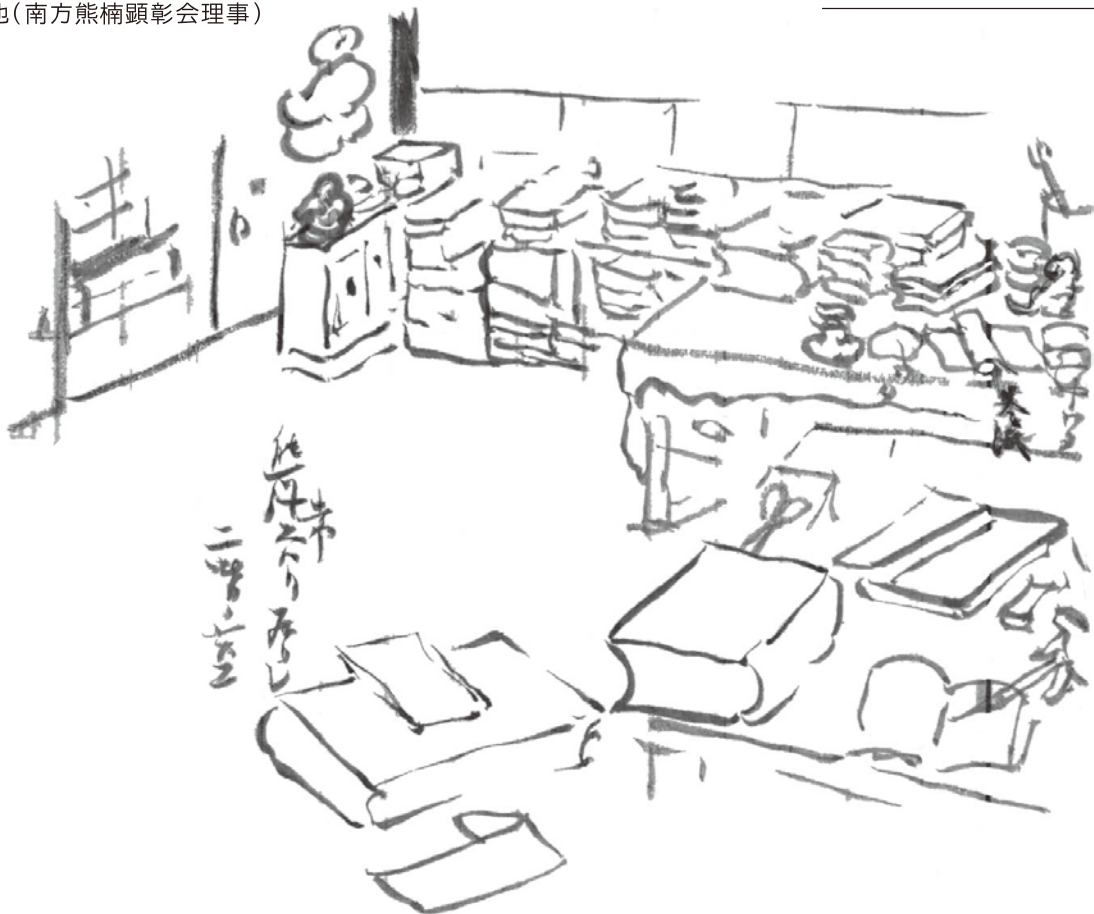
自筆資料に見る南方熊楠……………①

熊楠の愛情が垣間見えるスケッチ  
「長男熊弥の部屋」

文／田村義也(南方熊楠顕彰会理事)

## CONTENTS

第16回南方熊楠賞 受賞記念講演 ……	1面
南方熊楠の湯 安田忠典 ……	9面
「熊楠」生物覚え書⑤ 土永知子 ……	11面
熊楠ゆかりの地を訪ねる 中瀬喜陽 ……	12面
第6回南方熊楠ゼミナール ごあんない ……	13面
南方熊楠顕彰会刊行物およびグッズ紹介 ……	14面



南方熊楠顕彰館には、熊楠が生涯に書き記した膨大な量の自筆文書が保存されています。『南方熊楠全集』などこれまでの出版物で紹介され、よく知られている著作や書簡の自筆原本、原稿類もその中に含まれていますが、その他にも未刊書簡多数と、生涯書き続けた日記や膨大な読書・抜書ノート、研究メモ、生物資料スケッチなど実にさまざまな文書資料が未紹介のまま収蔵されています。

それらは、研究者としての熊楠の世界の広がりや奥深さを伝えてくれる他、人間南方熊楠のさまざまな側面、とりわけ友人や家族との関わりの微妙な消息を伝えてくれるものも多数あります。

熊楠が生涯つけ続けた日記(明治14年および明治16年から昭和16年までの計60冊)には、その日の出来事や仕事の他、

書簡の発信受信から庭の動植物が伝える季節の移り変わりまで、実にさまざまな情報が綿密に書きとどめられています。

今回ご紹介するのは、大正14年日記巻末の余白(住所録ページ)に書き入れられた室内スケッチ図です。図の中央左よりに「熊弥常[に]すはり居りし二階の室」と記されており、長男の熊弥が勉強部屋として使っていた南方邸母屋二階の様子をスケッチしたものと分かります。

明治40年生まれの熊弥は、この年の3月、旧制高校受験のため訪れていた高知市で発作を起こしました(統合失調症とされています)。帰宅後ただちに、和歌山市で入院しますが、5月以降自宅療養に入ります。それ以降、昭和3年に京都の病院へ入院するまでの間、熊楠は熊弥と起居を共にし、日記にその様子を克明

に記録しました。

この図をみると、机の上も脇も横積みになった書物であふれ、他に筆やハサミのような文具、そして尾のある動物のかたちをした置物のようなものも見えます。窓際の机の上のものには「ワタ」「巻紙」などの注記がわずかに見えますが、全体についての説明は上記の書入れ以外にありません(周囲には、熊楠の研究文献メモが書かれていますが、図との関係は分かりません)。

熊弥は、熊楠にとって期待する長男でした。誕生当時の喜びぶりは、明治40年の日記(八坂書店『南方熊楠日記』第3巻所収)にもあふれています。その最愛の長男の発病後、かつてのままに残された居室のさまを、父熊楠はどのような思いで日記に描き留めたのでしょうか。